

夏の思い出

九頭竜湖・麻那姫湖サマーフェスタ



介ブースでは冷やした大野の名水が振る舞われました。なかにはおかわりする人もいて、多くの来場者で賑わいました。



行委員会会長の岡田市長が「広大な森林やダム、地下水に恵まれた大野で全国行事を開催できることは意義深い。森林やダムの役割を理解し、資源として残す重要性を再認識してほしい」とあいさつ。保育園児の踊り披露や九頭竜川流域市町の郷土芸能など多彩なステージイベントや昆虫とのふれあい館、トロッコ列車の試乗や九頭竜川流域の特産品コーナーなどが人気を集めました。また、大野市紹

メイン会場の国民休養地では、二十六日の開会式を皮切りに、さまざまなイベントが繰り広げられました。現地実

森と湖に親しむ旬間の全国行事「森と湖に親しむつどい2008九頭竜湖・麻那姫湖サマーフェスタ」が七月二十六日、二十七日の二日間、九頭竜国民休養地をメイン会場に開催されました。二十七日は、雷雨と強風で午後一時五十分にはイベントが中止となったものの、二日間の来場者は一万九千五百人で、多くの人が森や湖に親しみながら、森林やダムの重要性について理解を深めました。



工作器具の使い方について真剣に聞く子供たち



大自然を堪能しながらのカヌー体験

九頭竜ダム下半原地区では、カヌー体験や森の工作教室などが行われました。



巡視艇体験は、キャンセル待ち殺到の盛況でした(九頭竜ダム)



長野発電所の内部でダムの仕組みについて説明を受ける来場者

九頭竜ダム提体周辺では、巡視艇体験やダム見学などが行われました。普段は入ることができないダム内部まで見学することができ、来場者は、担当職員の説明に聞き入っていました。



親子での参加が多かった魚のつかみ取り体験(中島公園)



真名川ダム見学は、約500人の噴水を目的に来場者多数でした

麻那姫湖では、真名川ダム提体周辺と中島公園でイベントが行われました。



第41回おおの城まつり



第四十一回おおの城まつりが八月十三日から十六日まで盛大に開催されました。恒例の「大花火大会」や「越前おおのおどり」のほか、高校生の企画による地元ネタを題材にしたクイズ企画や児童がオリジナル法被を着て踊る新イベントも登場。また寺町通りでは「万灯会」、七間・五番・春日の各商店街では「和のあかり」が営まれ、まつりの雰囲気をつさげよう高めました。



観光や産業、城まつりなどのクイズとチームパフォーマンスに高校生が挑戦。(8月15日、六間通り)



天空を彩った4000発の花火(8月13日、真名川憩いの島)



まつり会場をにぎやかに、華やかに盛り上げた水かけみこし(8月16日、六間通り)



大野、大野東両高校の美術部員がデザインした限定法被を着てかわいく踊る児童たち(8月16日、六間通り)



ぐるーぷ登場

さかだにひまわり会



阪谷地区夏まつりに集まった会員（8月2日）

ヒマワリの樂園を目指して



市民のページ

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は
情報広報課まで ☎0779・66・1111

阪谷地区は今夏も「スターランドさかだに」や各区で大輪のきれいなヒマワリが咲き誇りました。

「さかだにひまわり会」は、ヒマワリを使った地域おこし活動をしている団体です。三年前、さくらんぼ幼稚園に植えられたヒマワリから多くの種が採れたため、伏石区の人たちが転作地に種をまいたところ一万本以上の花が咲き話題になりました。「ヒマワリで人を呼ばないか」そこで地区内の有志が集まり、平成十九年四月に結成されたのが「さかだにひまわり会」で、現在九人の会員で活動しています。各区の人たちが積極的に活動を手伝ってくれるため、阪谷のいろいろな場所でも多くのヒマワリが咲くのだそうです。



会の大々な行事に市内の園児たちによる「スターランドさかだに」でのヒマワリの種まきがあります。二年目の今年は五月一日、約三百五十人が参加して盛大に行われました。また、会では昨年試行錯誤を重ねた結果、ヒマワリ油を完成させました。秋には再び園児たちが集まって種を収穫し、その種でヒマワリ油を搾る予定になっています。山村福和会長は「油にするのは労力が必要だが、阪谷地区に活気が出るのは嬉しい」と話してくれました。

【広告欄】

ととの冬はあんしん
屋根融雪「瓦番」
屋根融雪はぜひ実績と経験のある
地元で（見積り無料）
エナテックス（株）福井県総代理店
住空間のバイオニア
YA・MA・NI
山二工業株式会社
TEL65-5231(代)

各種損害保険・各種生命保険
事故相談・各種保険診断
グランド保険株式会社
〒912-0021 大野市中野町2丁目2番16号
☎050-3386-3952 ☎(0779)65-6601
☎(0779)65-6657 info@grandhoken.com
〈取扱保険会社〉 損害保険ジャパン アリコジャパン Afac
損保ジャパンひまわり生命 第一生命

おおの産業フェア
10月18日(土)19日(日)
伏見屋設備
TEL 66-3412
陽明町二丁目807
http://www.fusimiya.jp



奥村 浩司さん（下麻生嶋・25歳）

奥村さんは5月3日の県陸上選手権で男子やり投げに出場し、県勢初の68m超えで18年ぶりに県記録を更新。また、6月29日に出場した国内陸上界最高峰の日本陸上競技選手権大会で8位入賞を果たしました。

社会人になってから自己記録の更新を続ける奥村さんに、練習の取り組み方法や今後の目標を聞きました。

——記録更新と日本選手権入賞について

昨年は肩痛で苦しみましたが、今年はけががなくしっかり練習できていました。県選手権では、最終投てきの6投目に県記録を更新したのですが、投げた瞬間は「低く投げすぎた」と思いました。でも記録が出て正直びっくりでした。また日本選手権は出場選手23人中、持ち記録が最下位だったんです。でも、自己記録を更新することができて8位入賞で

夢はオリンピック出場

やり投げで県記録樹立・日本選手権入賞



きました。国内最高峰の大会での入賞なので、本当に嬉しかったですね。ただ、欲を言えばもっと記録が出せたかなと思っています。

——記録が今年伸びていますが練習で意識していることは

4月から大野高校で講師をしながら、生徒たちと練習しています。学生時代と比べて大きく変わったことは、走り込みなどで下半身の基礎作りがすごく増えたことですね。けが防止のためにも、下半身強化の重要性を痛感しています。



——今後の目標は

今年中に72mは投げたいですし、来年の日本選手権では、さらに上の順位を目指します。そして大きな夢は、4年後のオリンピックに出場することです。

また、指導者としても優秀な陸上選手を育てていきたいですね。



※やりは、重さ800g、長さ2.6～2.7m

一口メモ

【救急搬送における傷病程度】

「死亡」とは、初診時において死亡が確認されたもの。「重症」とは、傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの。「中等症」とは、傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。「軽症」とは、傷病の程度が入院加療を必要としないものをいいます。

【広告欄】

広告募集中

（1カ月1枠1万円）

問い合わせ先
情報広報課広報広聴係
（☎66・1111内線441）

ヤマハ音楽教室

コンサートのおしらせ！

9月7日（日）

Ashihara Top Concert

I部 戸原楽器音楽教室生代表

II部 エレクトーンプレイヤー

廣田 奈緒子 さん

於：大野市文化会館

開演 PM5:30

大人 900円（小児 600円）



お問い合わせは

あしはら楽器

65-6888



拠点施設整備へ初会合

保健、医療、福祉サービスの拠点施設を整備する基本計画策定委員会が7月14日、市役所で開かれました。委員は学識経験者や福祉団体の代表者、公募者など17人。施設の機能を考慮した用地の選定や運営体制などを考え、本年度中に計画を策定する予定です。

いろいろあるね湧水地

7月21日、市内7カ所の湧水地を巡るツアーが行われ41人が参加。参加者は、観光ボランティアや地元の管理者からわき水の歴史を学ぶとともに、名水を堪能しました。



わき水の由来について見入る参加者（木本薬師堂の霊泉）

商店街の活性化について実習

8月5日から15日まで、立命館大学の学生6人を公共政策実習生として受け入れました。中心市街地商店街の活性化を題材に、店主や住民などに聞き取り調査を実施、14日に報告会を行いました。学生たちの意見や提案については、今後の活性化の取り組みに生かしていきます。



先輩から手ほどき

高校生が小中学生に野球を指導する実技講習会が8月3日、5日に大野高校で行われました。大野、大野東の両高校野球部員など約30人が、3日は8スポーツ少年団の150人余り、5日は4中学校の部員約70人に指導を行いました。



育てた夏野菜でカレー作り

8月6日、食育推進モデル保育園の篠座保育園で3歳以上の園児26人によるカレー作りが行われました。自分たちで育てた野菜を切る作業に挑戦。プール遊びのあとの煮込み作業で「野菜にも命があるんだよ」と説明があり、園児たちは食べることの大切さを学びました。



全国植樹祭へ準備ちやくちやく

平成21年春に開催予定の全国植樹祭に向けた花の苗植栽が8月10日、柳廼社境内で行われました。植樹祭奥越会場の周辺地区となる城町3地区の住民約30人が参加。和泉小中学校の生徒が種から育てた花の苗200株をプランターに植え替え、参加3地区や学びの里「めいりん」などに設置しました。



指導の“恩”で大声援

北京オリンピック水泳競技日本代表北島康介選手の有終西小学校全校応援が8月11日、学びの里「めいりん」で行われました。有終西小学校は昨年全国公募の企画に選ばれて、北島選手を1日講師として招いています。児童たちは思い出の北島選手に大声援を送りました。（北島選手は、金メダルに輝きました）

農業発展のために基盤強化

市内8土地改良区と1土地改良事業共同施行の合併予備契約書調印式が8月12日、JAテラル越前本店で行われました。今後各団体での総会で承認を得て、県に認定申請。土地改良区の組織強化と運営の合理化を図り、力強い経営を目指します。





笑顔！で「いただきます」⑩

すこ



材料 (12人分)

- ・赤ズイキ 300g²
- ・酢 大さじ3
- ・砂糖 大さじ3



今後はすこです。
今後も伝え残したい郷土料理。

伝えたい郷土料理



作ってみよう

- ①赤ズイキは皮をむく
- ②よく洗って軽く水切りする
- ③4分の長さに切り、細いものは二つ割り、太いものは四つ割りにする
- ④鍋を熱し、ズイキを入れている
- ⑤しんなりしたら酢と砂糖を合わせ、混ぜてからきっちりふたをして冷ます（しっかりと冷ましましょう）

達人のワンポイントアドバイス

赤ズイキは、いりすぎずにシャキシャキ感を残すようにしましょう。「すこ」は秋祭りや報恩講など季節行事のごちそうです。また、血液をきれいにする効用があります。

(食生活改善推進連絡協議会 齋藤博子さん)



市民のうごき

平成20年8月1日現在

世帯数	12,237世帯 (-16世帯)
人口	38,398人 (-59人)
〈男〉	18,318人 (-17人)
〈女〉	20,080人 (-42人)

◆7月中の内訳

転入 47人 出生 30人
転出 100人 死亡 36人

発行 福井県大野市

編集 情報広報課 広報広聴係 (☎0779・66・1111)

市民団体「和泉えこっサ！」が今年から始めた企画で、約一カ月間、休日を中心に多くの家族や子どもたちが訪れました。取材しながら、自分も子どものときにカブト虫が大好きで、よく家族で捕りに行ったことを思い出し、夢中で観察。今も昔も変わらず、子どもを引きつけるカブト虫。大野のアウトドアは魅力満載です(小島)



和泉地区の屋内に樹木を並べて暗い夜の森を再現し、カブト虫探し体験できた「かぶと虫ハウス」

編集後記



各地で猛暑日を連発した今夏。とにかく暑かった。谷亮子選手の「ママでも金」はかなわなかったが、こちらも熱戦続きだった北京五輪。感動の名場面之余韻が漂う中、季節はようやく涼秋へ▼専門家の話によれば、夏ばては疲労のたまった秋ぐちに出やすいとか。特に高齢者にとって、この季節の変わり目は要注意である▼本紙では今月、介護特集を組んでいる。当市で介護認定を受けている人は千六百五十四人。そのうちほとんどが高齢者とも。家族が認知症と診断され、介護認定を受けた知人によれば、病を受け入れ認定に踏み切るまでには、かなりのかつとうがあつたと聞く▼介護は年中無休である。する側もされる側にも相当のストレスが。家族や関係機関のサポートを受け、介護仲間とも励まし合いながら頑張りすぎない介護でバランスを保っているという▼第十一回風花随筆文学賞の知事賞受賞作「四十五年目の約束」の中で、病床の夫にひとめ青空を見せたいと妻が手鏡に空を映し二人寄り添って眺めるという感動的なシーンが描かれている。敬老の日も間近。老いはいすれ誰にでもおとすれる。明日はわが身と受け止め、特別な日だけではなく、何気ない日常の中でこそ、大切な人と気持ちでしっかりつながっていたい(羽生)



R100

この広報紙は、古紙配合率100%の再生紙と環境に優しい大豆油インキを使用しています。